



鉄砲館だより

種子島開発総合センター

☎2313215

ぶんぶん文化財

Cultural property

【第32回】

日本最南端の武家集落

西之表市には薩摩藩の麓集落として栄えた江戸時代の面影を伝える貴重な文化財が多く残っています。種子島全体が薩摩藩の一外城であり、武家の文化が咲き誇った日本最南端の地といえます。当時、港を見下ろす舌状台地には赤尾木城を中心に士族が居住する野首・松畠・中目・小牧・納曾・中野の麓六郷があり、海岸沿いの低地（西町・東町）には野町が置かれ、商人や職人が居住していました。

平成29年、西町にある「八板家住宅」が、近世町家の貴重な遺構として評価され、国の有形文化財（建造物）に登録されました。現在カフェとして活用されていますが、中の間上部に2階があり、座敷の奥まで進むと、この建物を特徴づける吹抜け、船底型の天井が見えますので、ぜひご覧ください。

また、令和3年には、西町にある「遠藤家住宅」が、赤土の壁や縁側の天井曲面など、その数寄屋風の造作が評価され登録されました。棟札によると、建物の最も古い部分は天保11年（1840年）まで遡ります。

他にも集落の街路空間を特徴づけるものとして、サンゴの野面積み石垣や

遠藤家住宅（縁側の天井局面）



ヒトツバの生垣、石敢當などがあげられ、南国ならではの武家集落景観が残っています。これらの建物や街路空間を頼りに街歩きをすると、見慣れた風景も違って映り、さらに楽しめると思います。

（文責…文化財保護審議会

委員 岩下 真奈美）